

天井下地間仕切下地システム

SATOCK[®]

● 製品案内 ●

PRODUCTS CATALOGUE



CONTENTS

冷間ロール成型機について	2		
SATOCK 軽鉄天井下地材		SATOCK 軽鉄壁下地材	
SATOCK 軽鉄天井下地材	3	SATOCK 軽鉄壁下地材	13
SATOCK 軽鉄天井下地部材	3	SATOCK 壁下地部材	13
SATOCK 軽鉄天井下地部材断面性能表	4	SATOCK 壁下地断面性能表	14
建築用鋼製下地材(天井)JISA6517-2010抜粋	4	建築用鋼製下地材(壁)JISA6517-2010抜粋	14
SATOCK 軽鉄天井下地施工要領	7	SATOCK 軽鉄壁下地施工要領	16
天井野縁標準割付図	7	軽鉄壁下地標準割付図	16
下り壁詳細図	9	一般壁面施工詳細図	17
天井と壁の納り詳細図	10		
開口部詳細図	10		
カーテンボックス納り詳細図	11		
スパンドレル天井詳細図	11		
リプラス下地詳細図	11		
天井下地組寸法概要・重量表及び使用数量	12		

冷間ロール成型機について。

SATOCK 軽鉄天井下地、及び壁下地システムの主材を成す各チャンネル、バー材、スタッド材、ランナ材等は全て冷間ロール成型機にて成型、加工されるものであります。冷間ロール成型機とは多段に設定されたロール間に鋼板を順次通過させ、各段に於いて分担せしめた曲角が終了して次段のロールへと続き、最終段に於いて完成品となる様に設計された機械であります。尚この様にし

て出て来た製品は走行断機によって寸法にカットされ完成品となります。然しながらこの様に出来た製品の良し悪しは全てロールによって決まると云っても過言では有りません。弊社は特にロール設計については多くのノウハウを有し、又冷間ロール成型機の卓越した操作技術と相まって優秀な製品を世に送り出しているものであります。

SATOCK 建築用鋼製下地材は軽鉄天井下地材と軽鉄壁下地材とに大別されます。

SATOCK 軽鉄天井下地材

内装工事の中に於ける天井工事のしめる比重は非常に大きいものが有ります。美しい内装工事の仕上りを期する場合、其の一番重要なポイントは天井工事に有るとさえ云われて居ります。そして、其の天井下地部材の強度、精度、バランスが整った下地材で天井を施工して行く事が大切な事は申し上げる迄も有りません。

以上の様な事を総合的に判断し、三拍子揃った製品として製造されているものが **SATOCK** 軽鉄天井下地材であります。弊社ではチャンネル、バー材、そしてそれに使用する部品は全て一貫して自社生産しておりそれらの品値は万全と自負しております。

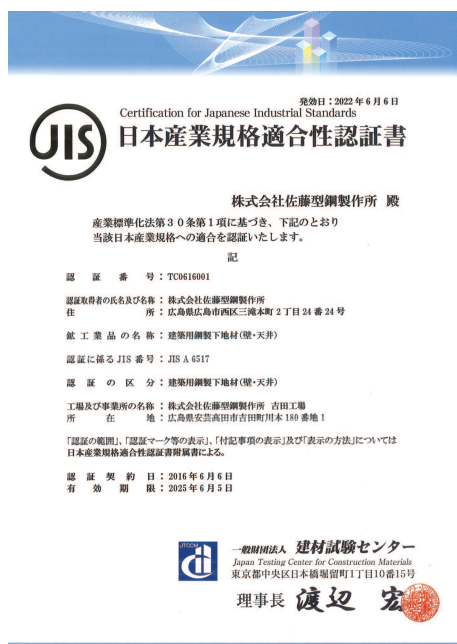
SATOCK 軽鉄壁下地材

最近の建築はA.L.C板等に代表されるが如くに、出来る丈乾式の工法を取り入れるべく様式が変化して来て居ります。内装壁工事に於きましても例外にもれず、湿式から乾式への移行が激しく行われて居ります。

SATOCK 軽鉄壁下地はこの様な傾向から生み出されたものでありまして、其の特長としましては、

- (1)断面形状から見てI型をしており材料強度が非常に大きい。
- (2)組立て施工が非常に簡単で、工期が短い。
- (3)他の方式に比較して材料が軽量である為、建物の荷重が軽減される。
- (4)壁中に吸音材を入れ、ボード貼りをすれば、遮音効果が大きい。又ボードを二重貼りにすれば遮音効果は更に大きくなる。
- (5)電気、電話等の配管が自由に出来る、等です。

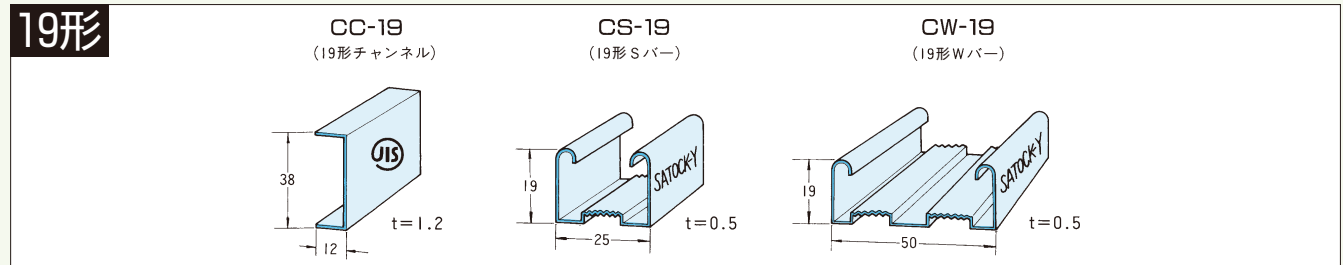
SATOCK 建築用鋼製下地材は日本産業規格に基づいて、日本産業規格表示許可工場にて製造されたものです。



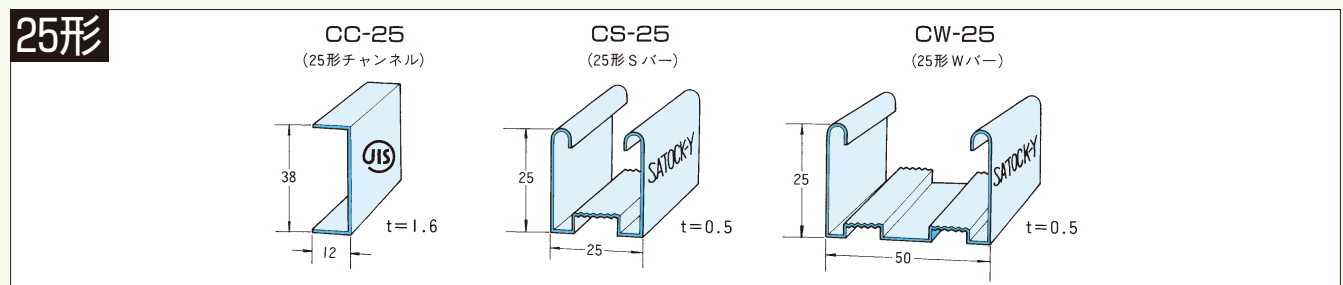
SATOCK 軽鉄天井下地材

1 SATOCK 軽鉄天井下地部材

(1) 日本産業規格製品 (JIS規格材)

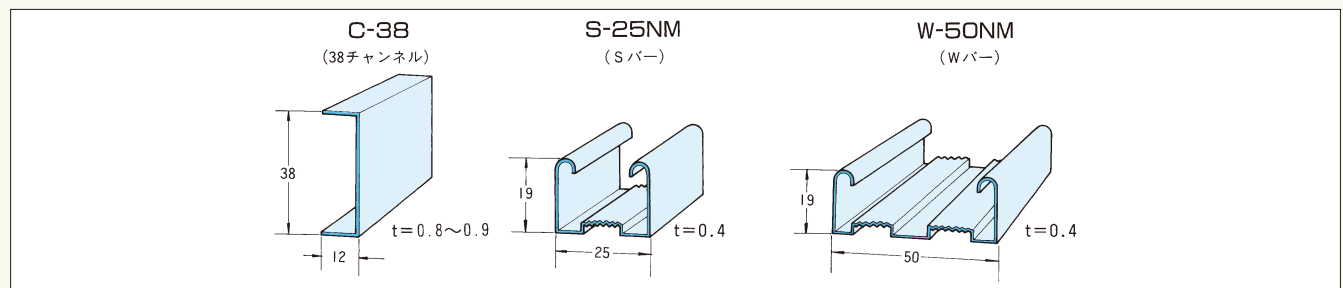


JIS製品はⓂマークとSATOCK-Yの刻印が附してあります。

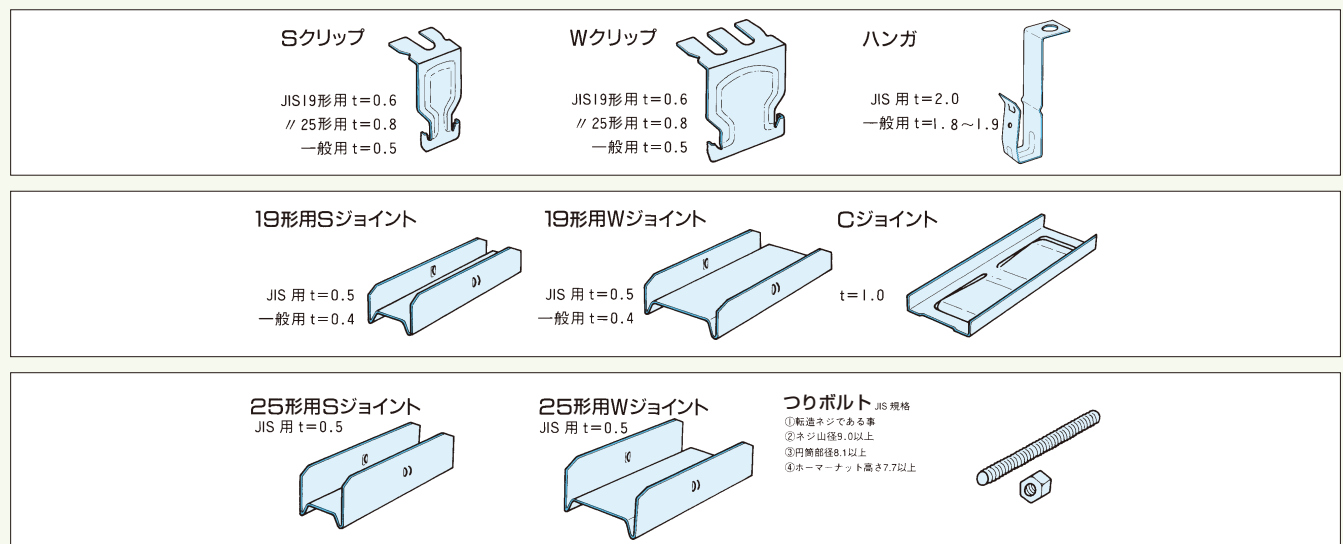


JIS製品はⓂマークとSATOCK-Yの刻印が附してあります。

(2) 一般普及製品 (一般材19形)



(3) 構成部品



2 SATOCK 軽鉄天井下地部材断面性能表

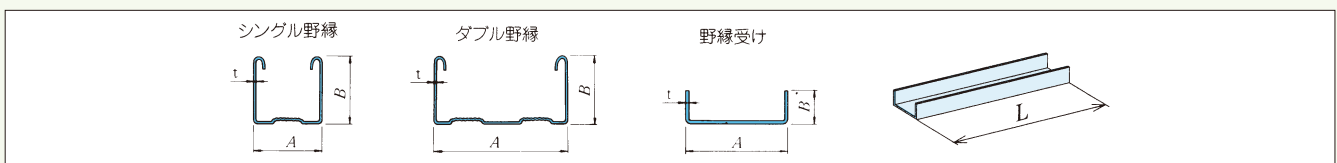
2024年11月改訂

名称	形状	製品記号	寸法 (mm) H×A×t	単位重量 (kg/m) W	断面積 (cm ²)	断面二次モーメント (cm ⁴)		断面係数 (cm ³)		断面二次半径 (cm)		重心位置 (cm)	
						I _x	I _y	Z _x	Z _y	i _x	i _y	c _x	c _y
野縁受		CC-19	38×12×1.2	0.5474	0.6840	1.330	0.08251	0.6998	0.09000	1.394	0.3473	1.900	0.2835
		CC-25	38×12×1.6	0.7264	0.9120	1.725	0.1065	0.9081	0.1183	1.375	0.3417	1.900	0.3000
野縁	シングル野縁	CS-19	19×25×0.5	0.2876	0.3500	0.1654	0.3551	0.1467	0.2841	0.6874	1.007	0.7730	1.250
		CW-19	19×50×0.5	0.3903	0.4750	0.2131	1.806	0.1622	0.7224	0.6698	1.950	0.5860	2.500
		ダブル野縁	CS-25	25×25×0.5	0.3451	0.4200	0.3583	0.4490	0.2511	0.3592	0.9236	1.034	1.073
		CW-25	25×50×0.5	0.4478	0.5450	0.4611	2.202	0.2773	0.8807	0.9198	2.010	0.8370	2.500

3 建築用鋼製下地材(天井)JISA6517-2010抜粋

(1)天井下地材の形状・基準寸法・許容差及び材料

天井下地材の構成部材の寸法



単位 mm

構成部材	記号	幅(A)		高さ(B)		板厚(t) ^{b)}	長さ(L) ^{a)}	
		基準寸法	許容差	基準寸法	許容差	基準寸法	基準寸法	許容差
シングル野縁	CS-19	25	±1.5	19	±0.5	0.5	4000	+40
	CS-25			25				
ダブル野縁	CW-19	50	±1.5	19	±0.5	0.5	5000	0
	CW-25			25				
野縁受け	CC-19	38	±0.5	12	±1.5	1.2		
	CC-25					1.6		

※注^{a)} 長さ(L)は、それぞれの記号の長さの上限内において受渡当事者間の協定によって定めてもよい。

^{b)} 板厚(t)の許容差は、JIS G 3302及びJIS G 3321による。

天井下地材の附属金物の寸法

単位 mm

附属金物の種類		天井下地材の種類		
		19形	25形	
つりボルト	ねじの種類		3/8ウイト転造ねじ	
	山の角度(参考)		55°程度	
	山数/インチ(参考)		16山	
	外径	基準寸法	9.0	
		許容差	+0.3 0	
	有効径	基準寸法	8.1	
許容差		+0.2 0		
ナット	ねじの種類		3/8ウイトねじ	
	二面幅	基準寸法	17	
		許容差	+0 -0.7	
	高さ	基準寸法	8.0	
		許容差	+0.4 -0.3	
	山の角度(参考)		55°程度	
	山数/インチ(参考)		16山	
内径(参考)	基準寸法	7.7		
	許容差	+0.4 0		
ハンガ ^{a)}	板厚	2.0以上		
クリップ ^{a)}	板厚	0.6以上	0.8以上	
シングル野縁ジョイント ^{a)}	板厚	0.5以上		
ダブル野縁ジョイント ^{a)}	板厚	0.5以上		
野縁受けジョイント ^{a)}	板厚	1.0以上		

※注^{a)} 板厚の許容差は、JIS G 3302又はJIS G 3321によるものとし、他の寸法(幅、高さなど)については、受渡当事者間の協定による。

材料

鋼製下地材の構成部材及び附属金物に使用する材料は、下表又はこれと同等以上の品質をもつものでなければならない。

鋼製下地材	構成部材	附属金物	適用JIS
天井下地材	シングル野縁、 ダブル野縁、 野縁受け	ハンガ、クリップ、 シングル野縁ジョイント、 ダブル野縁ジョイント、 野縁受けジョイント	JIS G 3302：種類及び記号は、冷延原板のSGCC又はSGC400とし、熱延原板はSGHC又はSGH400とする。めっきの付着量は、めっきの付着量表示記号のZ12以上とする。 JIS G 3321：種類及び記号は、冷延原板のSGLCC又はSGLC400とし、熱延原板はSGLHC又はSGLH400とする。めっきの付着量は、めっきの付着量表示記号AZ90以上とする。
	—	つりボルト、ナット	JIS G 3505：種類及び記号は、SWRM8、SWRM10又はSWRM12とする。また、JIS H 8610に規定する1級以上、JIS H 8625に規定する1級CM1A以上又はこれと同等以上の防錆処理を施したものとする。

※注^{a)} 受入れ時の鋼材検査証明書などによって確認する。

(2)品質及び性能

外観

天井下地材の外観は、9.1によって試験を行い、次の規定に適合しなければならない。

- a) 天井下地材の構成部材及び附属金物の外観は、使用上支障のあるねじれ及び変形があってはならない。
- b) 天井下地材の構成部材及び附属金物の外観は、使用上有害な引っかききず、凹凸及び汚れがあってはならない。

性能

天井下地材の性能は、簡条9によって試験を行い、下表の規定に適合しなければならない。

天井下地材の性能

単位 mm

性能項目			性能	試験簡条	
構成部材の形状安定性	横曲がり ^{a)}		2L/1000以下 ^{a)}	9.3.1	
	反り ^{b)}		2L/1000以下 ^{b)}	9.3.2	
荷重強さ	下向き荷重	野縁	最大たわみ量	10以下	9.5.1 ^{a)}
			残留たわみ量	1以下	
	野縁受け	最大たわみ量	5以下	9.5.1 ^{b)}	
		残留たわみ量	1以下		
上向き荷重	野縁	最大たわみ量	5以下	9.5.2	

※注^{a)} 横曲がりの測定箇所 (A) 及びLは、別紙図による。

^{b)} 反りの測定箇所 (B) 及びLは、別紙図による。

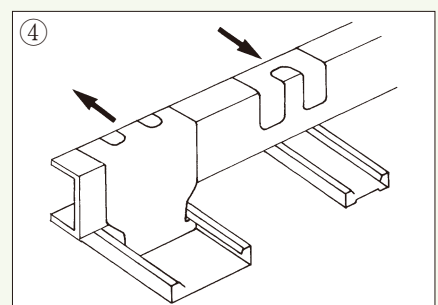
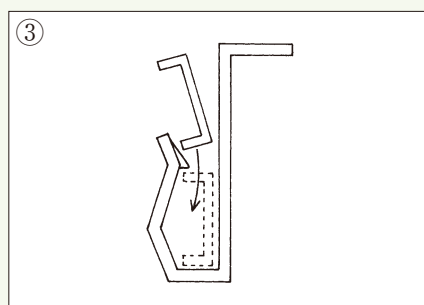
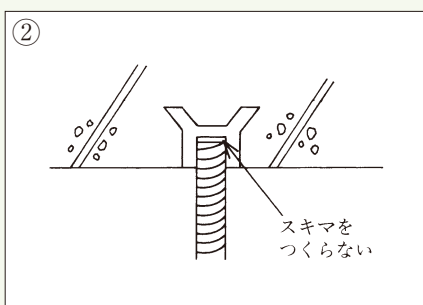
(3)表 示

当社の日本産業規格製品（野縁及野縁受け等）には下記のマーク（刻印）が附してあります。



(4)施工手順

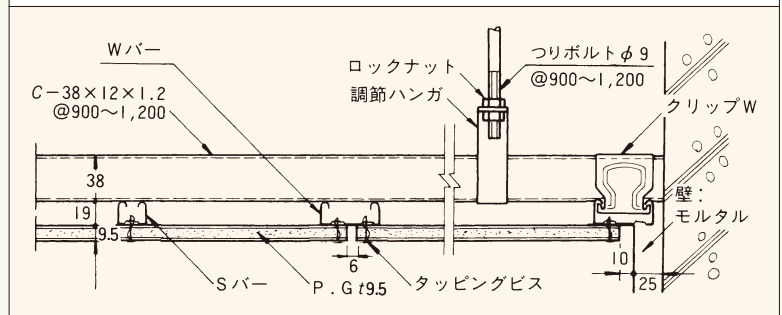
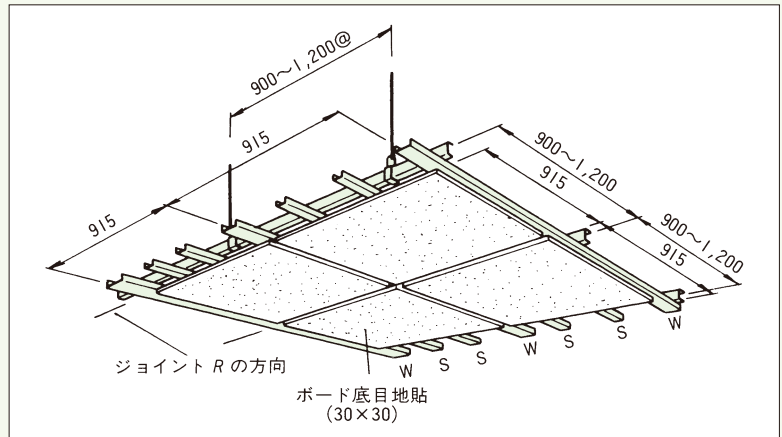
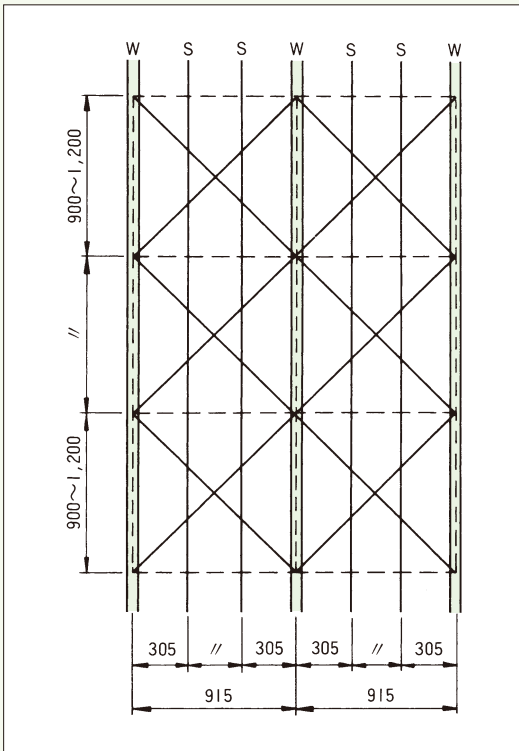
- ① 取り付けボルトにハンガを取付ける。締め付け固定用ナットはハンガの位置が調節出来る様に間隔をあけて取付けておく。
- ② 天井インサート等に取り付けボルトをねじ込む。この場合最後迄取り付けボルトをガッチリねじ込む。(図②参照)
- ③ 38チャンネルをハンガに嵌合挿入する。この場合38チャンネルの向きを良く見て挿入する事が大切である。(図③参照)
- ④ 38チャンネルに対し、Sバー、Wバーを指定された間隔にて各々、Sクリップ、Wクリップにて固定する。ここで最も大切な事は SクリップにしるWクリップにしる必ずクリップの向きを交互にさせて取付ける事。これが不完全だと天井落下の原因となる。(図④参照)
- ⑤ 最後に天井高、水平等を調節して、ハンガを上下のナットでガッチリ固定する。ナットの固定が不完全だと天井のアバレの原因となる。



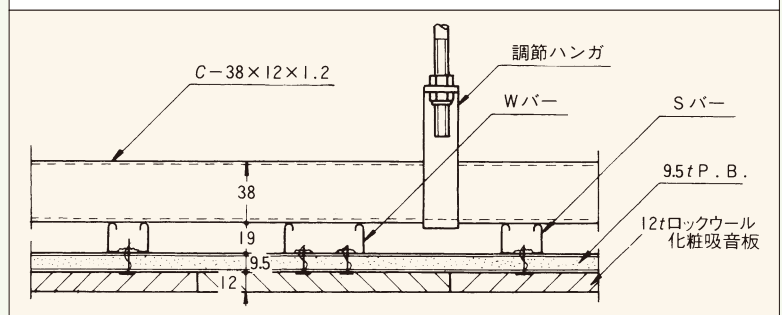
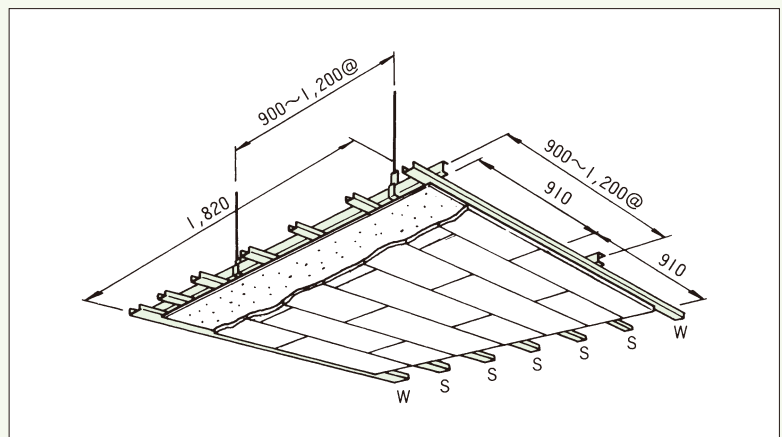
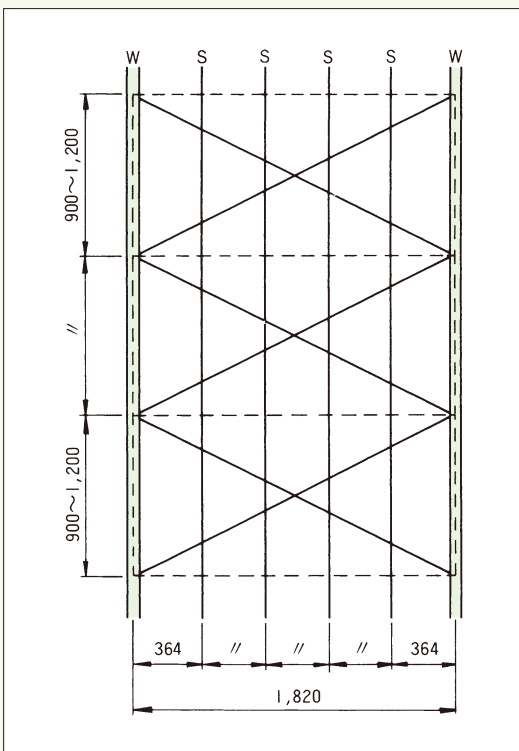
SATOCK 軽鉄天井下地施工要領

1 天井野縁標準割付図

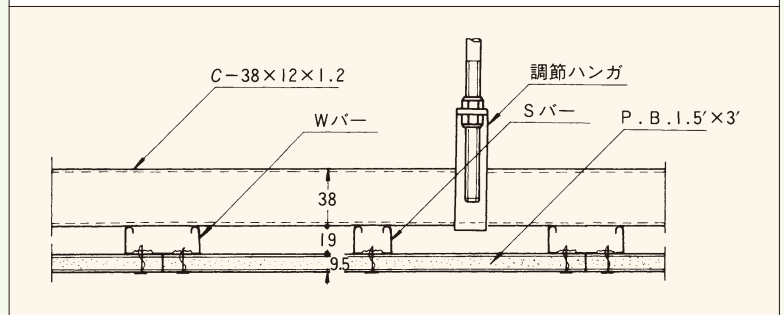
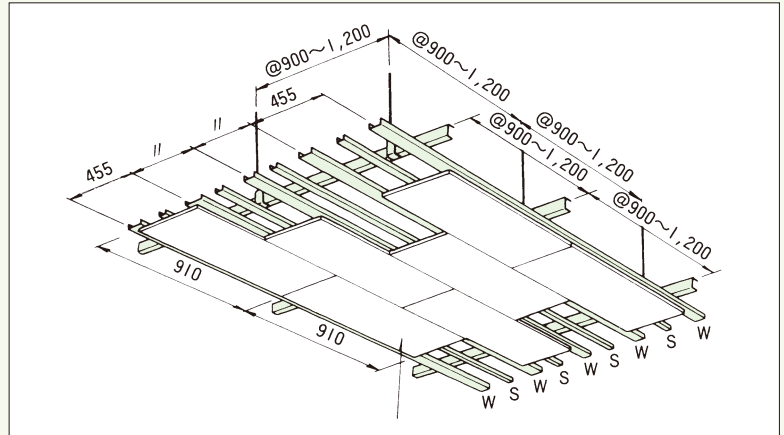
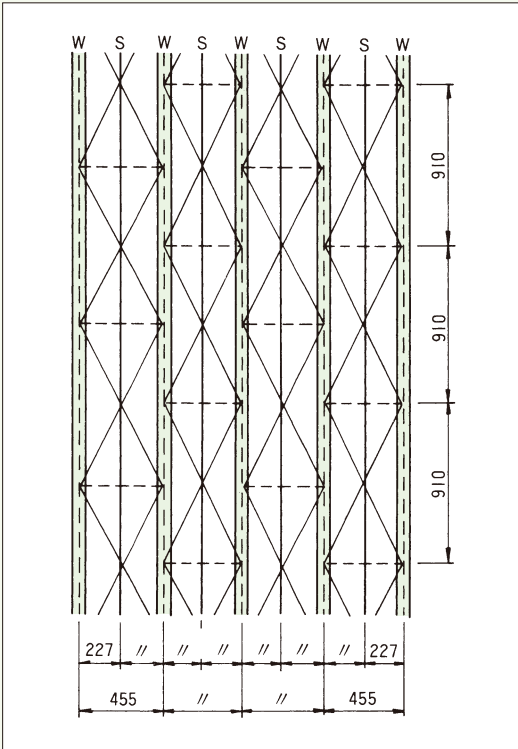
3'×3'角ボード貼上用



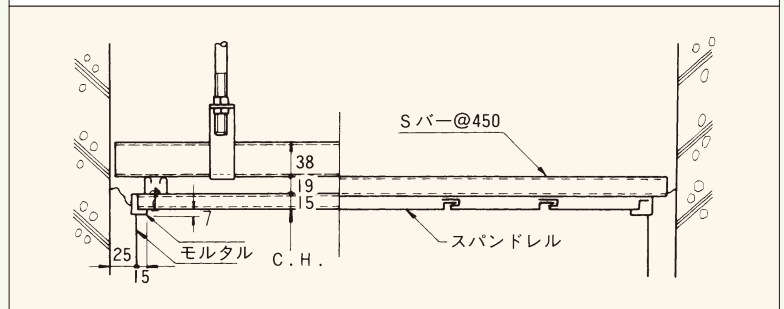
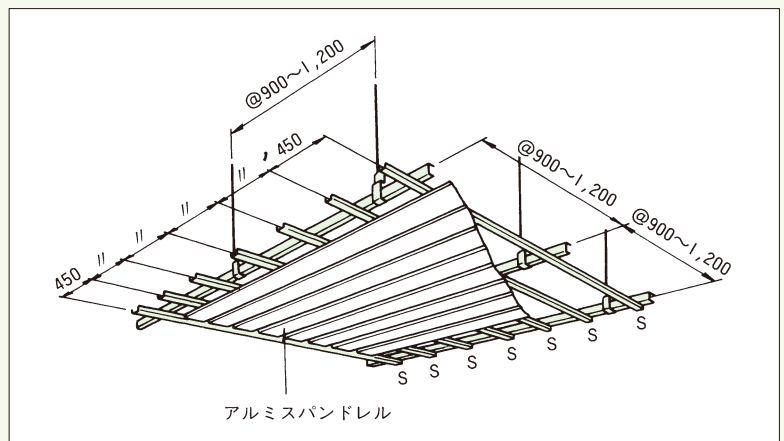
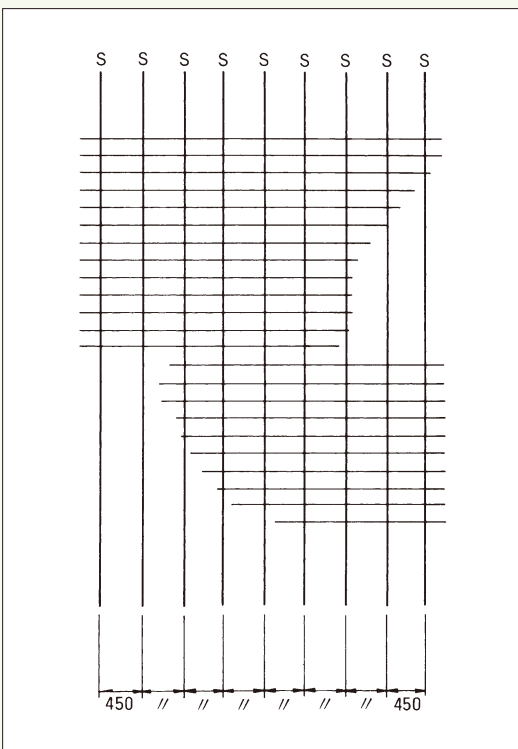
3'×6'角ボード捨貼用



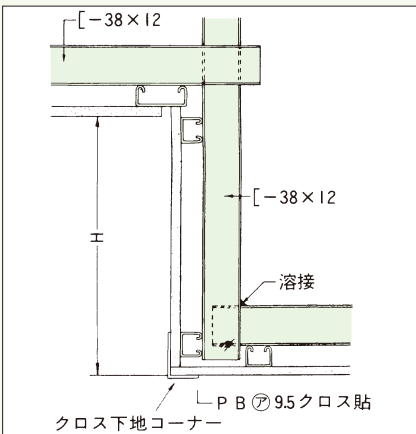
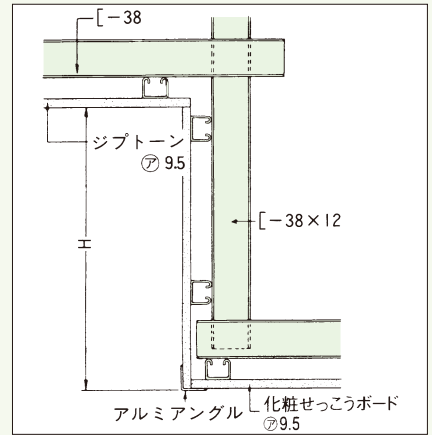
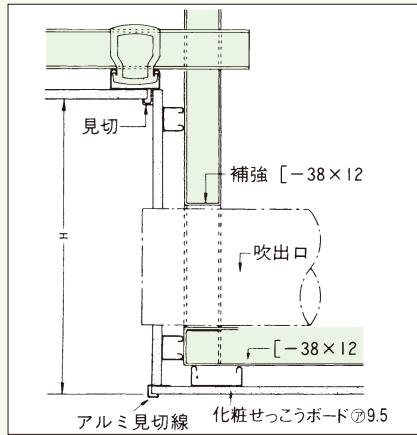
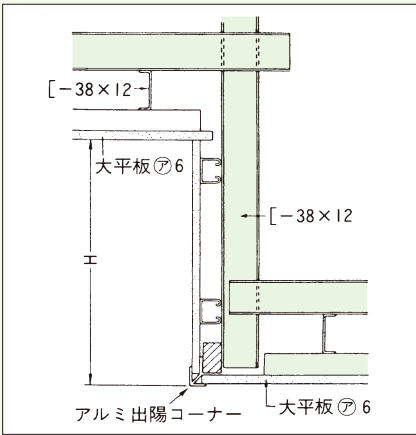
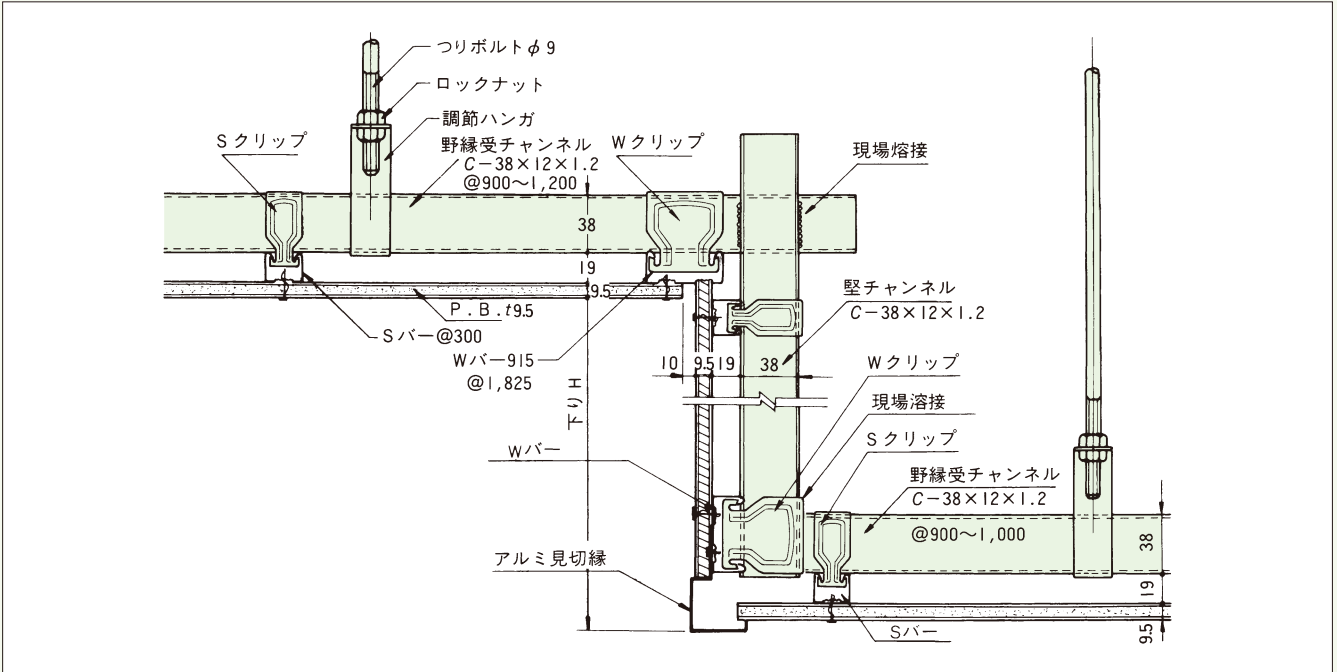
1.5'×3'角ボード貼上用



スパンドレル貼上用



2 下り壁詳細図



8 天井下地組寸法概要・重量表及び使用数量

天井下地組寸法

仕上材の種類	寸法(板厚)	野縁の間隔		摘要	
		Sバー	Wバー		
繊維強化セメント板 化粧貼 (大平板、フレキシブル板) (けい酸カルシウム板)	910×1820×5t	303	1820又は910	ドライウォールビス止	
	〃 6t	303	1820又は910		
	〃 8t以上	303	1820又は910		
	910×910×5t	303	910		
	〃 6t	303	910		
	〃 8t以上	303	910		
プラスターボード ラスボード 化粧ボード ジブトーン類	化粧貼 (突付貼)	910×1820×9.5t	303	1820又は910	ドライウォールビス止
		〃	303	1820	9107入れ子も有り
	捨貼	910×910×9.5t	364	910	9107入れ子も有り
		910×1820×9.5t	303	1820又は910	ドライウォールビス止
木毛セメント板類 パーティクルボード類	捨貼	〃	364	1820	ドライウォールビス止
		910×1820×12t	303	1820又は910	ドライウォールビス止
スパンドレル	幅各寸法	910×1820×15t以上	303	1820又は910	丸座金使用
		ラスモルタル類	C-19チャンネル300~450	C-19チャンネル300~450	外部については強度検討要 力骨、結束を必ず行う

天井下地重量表

仕様例	プラスターボード捨貼 岩綿吸音板仕上	プラスターボード捨貼 寒冷沙貼仕上	けい酸カルシウム板 底目地貼
インサート	900×900	900×900	900×900
φ9つりボルト500	900×900	900×900	900×900
野縁受C-38	900	900	900
野縁Sバー	364	303~364	303~364
〃 Wバー	1820	1820	1820
目地	突付	突付	底目地板
ボード類	プラスターボード9.5t	プラスターボード9.5t	けい酸カルシウム板6t
仕上	ロックウール化粧吸音板9t	Vカット突付貼	〃
下地重量	3.0~3.2	3.3~3.6	3.4~3.8
仕上材重量	10.3~11	6.6	6.4
合計	13.3~14.2	9.9~10.2	9.8~10.2

軽鉄天井下地材 1 m²当りの使用数量

部材名	仕上の種別 単位	ボード捨貼り 910×1,820	ボード仕上貼り 910×910	ボード仕上貼り 455×910	ボード仕上貼り 910×1,820	スパンドレル貼り
3/8つりボルト	本	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
3/8ナット	ケ	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
ハンガ	ケ	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
38チャンネル	本	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
Sバー	本	0.6	0.5	0.56	0.7	0.55
Wバー	本	0.16	0.25	0.56	0.16	—
Sクリップ	ケ	2.9	2.8	3.0	3.5	3.0
Wクリップ	ケ	0.7	1.5	3.0	0.7	—
Sジョイント	ケ	0.5	0.45	0.55	0.6	0.55
Wジョイント	ケ	0.15	0.25	0.55	0.15	—
Cジョイント	ケ	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26

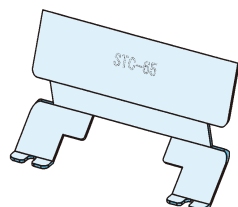
SATOCK 軽鉄壁下地材

1 SATOCK 壁下地部材

	スタッド		ランナ		補強材		振れ止め	
	JIS規格材	一般材	JIS規格材	一般材	JIS規格材	一般材	JIS規格材	一般材
品質 サイズ	板厚=0.8 亜鉛の付着量 Z12(120g/m ²)以上 AZ90(90g/m ²)以上	亜鉛の付着量 Z12(120g/m ²) 又はZ08(80g/m ²)	板厚=0.8 亜鉛の付着量 Z12(120g/m ²)以上 AZ90(90g/m ²)以上	亜鉛の付着量 Z12(120g/m ²) 又はZ08(80g/m ²)	亜鉛の付着量 Z12(120g/m ²)以上	亜鉛の付着量 Z12(120g/m ²) 又はZ08(80g/m ²)	板厚=1.2 亜鉛の付着量 Z12(120g/m ²)以上 AZ90(90g/m ²)以上	亜鉛の付着量 Z12(120g/m ²) 又はZ08(80g/m ²)
50形					—			
65形								
75形								
90形								
100形								

スタッド、ランナ、振れ止め等のJIS製品には㊟マークとSATOCK-Yの刻印が附してあります。

スペーサ参考図



サイズ：50、65、75、90、100形

2 SATOCK 壁下地断面性能表

2024年11月改訂

名称	形状	製品記号	寸法 (mm) H×A×t	単位重量 (kg/m) W	断面積 (cm ²)	断面二次モーメント (cm ⁴)		断面係数 (cm ³)		断面二次半径 (cm)		重心位置 (cm)	
						Ix	Iy	Zx	Zy	ix	iy	cx	cy
スタッド		WS-50	50×45×0.8	1.021	1.272	5.539	3.666	2.216	1.398	2.087	1.698	2.500	1.877
		WS-65	65×45×0.8	1.092	1.352	9.863	3.727	3.035	1.302	2.701	1.660	3.250	1.638
		WS-75	75×45×0.8	1.176	1.472	13.91	4.249	3.709	1.479	3.074	1.699	3.750	1.628
		WS-90	90×45×0.8	1.280	1.592	21.10	4.529	4.688	1.514	3.640	1.687	4.500	1.508
		WS-100	100×45×0.8	1.338	1.672	26.88	4.693	5.376	1.533	4.009	1.675	5.000	1.438
振れ止め		WB-25	25×10×1.2	0.3889	0.4860	0.04324	0.4187	0.05970	0.3350	0.2983	0.9282	0.2756	1.250
		WB-19	19×10×1.2	0.3313	0.4140	0.03919	0.2146	0.05700	0.2259	0.3077	0.7199	0.3126	0.9500

3 建築用鋼製下地材(壁)JISA6517-2010抜粋

(1)種類及び記号

壁下地材の構成部材の組合せ

鋼製下地材	区分記号	構成部材の組合せ
壁下地材	50形	WS-50、WR-50、WB-19及びスペーサを組み合わせたもので、スタッドの長さが2.7m以下のもの。
	65形	WS-65、WR-65、WB-25及びスペーサを組み合わせたもので、スタッドの長さが4m以下のもの。
	75形	WS-75、WR-75、WB-25及びスペーサを組み合わせたもので、スタッドの長さが4m以下のもの。
	90形	WS-90、WR-90、WB-25及びスペーサを組み合わせたもので、スタッドの長さが4.5m以下のもの。
	100形	WS-100、WR-100、WB-25及びスペーサを組み合わせたもので、スタッドの長さが5m以下のもの。

(2)品質及び性能

外観

壁下地材の外観は、9.1によって試験を行い、次の規定に適合しなければならない。

- a) 壁下地材の構成部材及び附属金物の外観は、使用上支障のあるねじれ及び変形があってはならない。
- b) 壁下地材の構成部材及び附属金物の外観は、使用上有害な引っかききず、凹凸及び汚れがあってはならない。

性能

壁下地材の性能は、箇条9によって試験を行い、下表の規定に適合しなければならない。

壁下地材の性能

単位 mm

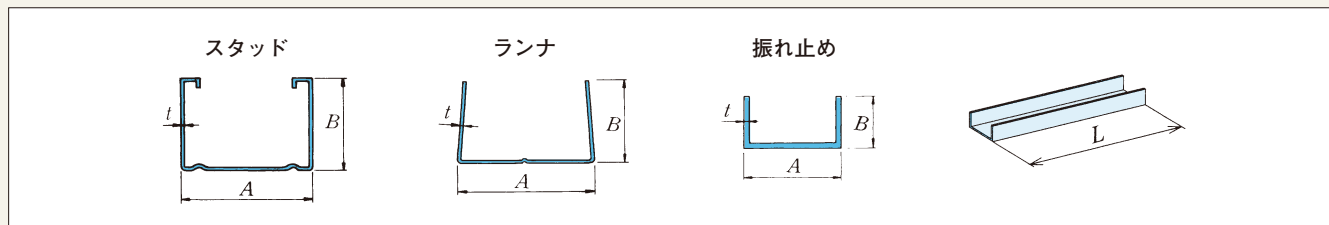
性能項目		性能	試験箇条
構成部材の形状安定性	横曲がり ^{a)}	ランナ及びスタッドはL/1000以下 ^{a)} 振れ止めは2L/1000以下 ^{a)}	9.3.1
	反り ^{b)}	2L/1000以下 ^{b)}	9.3.2
载荷強さ	最大残留たわみ量	2以下	9.4.1
耐衝撃性	最大残留たわみ量	10以下	9.4.2
	部材の折れ及び外れ	あってはならない	

※注^{a)} 横曲がりの測定箇所 (A) 及びLは、別紙図による。

^{b)} 反りの測定箇所 (B) 及びLは、別紙図による。

(3)壁下地材の形状・基準寸法・許容差及び材料

壁下地材の構成部材の寸法



単位 mm

構成部材	記号	幅(A)		高さ(B)		板厚(t) ^{b)}	長さ(L) ^{a)}	
		基準寸法	許容差	基準寸法	許容差		基準寸法	許容差
スタッド ^{c)}	WS-50	50	±0.5	45	±1.0	0.8	2400	+40 0
	WS-65	65					2700	
	WS-75	75					3000	
	WS-90	90					3500	
	WS-100	100					4000	
ランナ	WR-50	52	±0.5	40	±1.0	0.8	4000	+40 0
	WR-65	67						
	WR-75	77						
	WR-90	92						
	WR-100	102						
振れ止め	WB-19	19	±1.5	10	±1.5	1.2	4000	+40 0
	WB-25	25					5000	

※注^{a)} 長さ(L)は、それぞれの記号の長さの上限内において受渡当事者間の協定によって定めてもよい。

^{b)} 板厚(t)の許容差は、JIS G 3302及びJIS G 3321による。

^{c)} スタッドには、振れ止めを通すための孔を約1200mmの間隔で設ける。ただし、上部ランナ上端から400mm以内に位置する孔は、受渡当事者間の協定によって省略してもよい。

材 料

鋼製下地材	構成部材	附属金物	適用JIS ^{a)}
壁下地材	スタッド、ランナ、振れ止め	スペーサ	JIS G 3302：種類及び記号は、冷延原板のSGCC又はSGC400とし、熱延原板はSGHC又はSGH400とする。めっきの付着量は、めっきの付着量表示記号のZ12以上とする。 JIS G 3321：種類及び記号は、冷延原板のSGLCC又はSGLC400とし、熱延原板はSGLHC又はSGLH400とする。めっきの付着量は、めっきの付着量表示記号AZ90以上とする。

※注^{a)} 受入れ時の鋼材検査証明書などによって確認する。

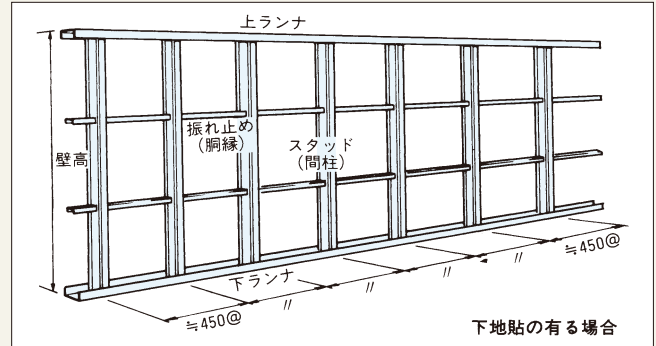
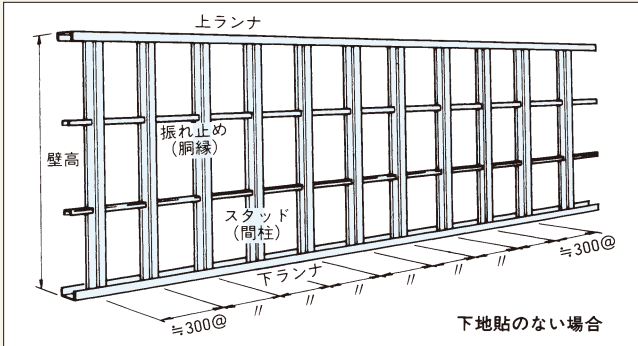
(4)表 示

当社の日本産業規格製品（スタッド、ランナ等）には下記のマーク（刻印）が附してあります。



SATOCK 軽鉄壁下地施工要領

1 軽鉄壁下地標準割付図



施工手順

- (1) 墨出し
床モルタル仕上げをした後墨出しをします。
- (2) ランナ取り付け
下ランナを空気銃 (エアーガン) にて約900mmピッチに取付けていきます。
尚、上ランナも同じ要領で取付けます。
- (3) スペーサ取付け
スタッドは間仕切の高さに合わせて切り揃え両端にスペーサを取付けます。又同じ様にスペーサは約600mmピッチにはめ込んでいきます。

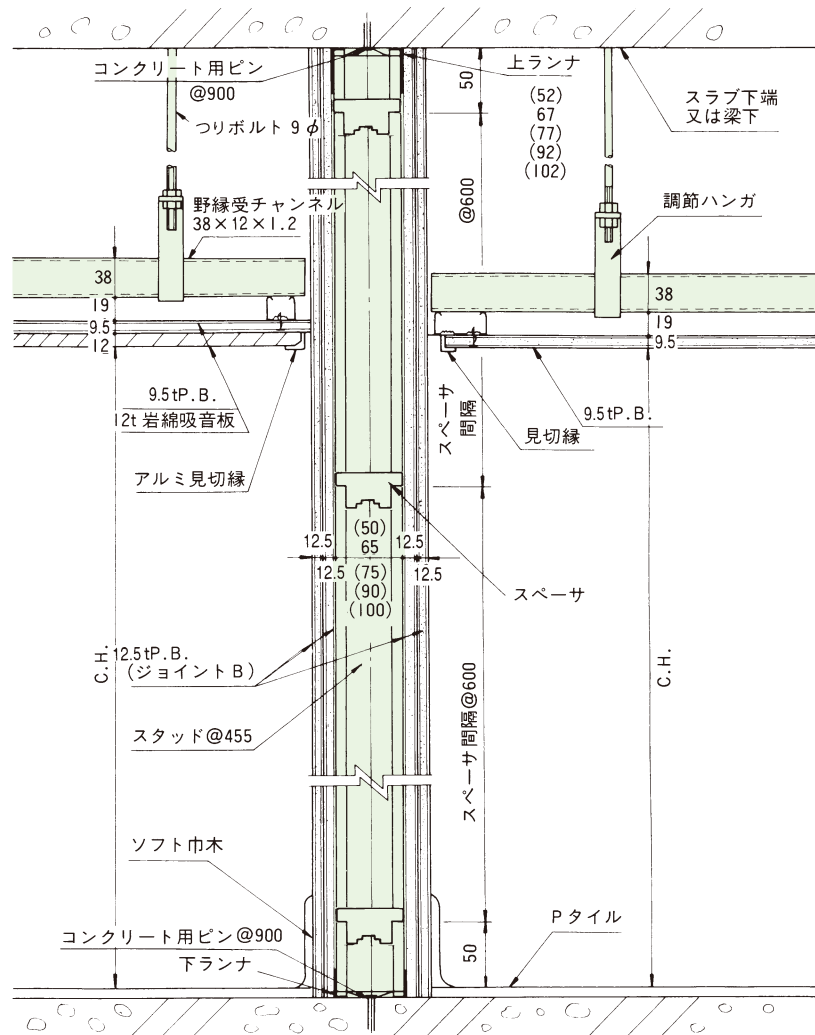
- (4) スタッド建込み
次にスタッドを下貼ボードの割付き合わせ300mm又は450mm内外に位置し、墨出しを行います。
- (5) 振れ止め取付け
建込み後、振れ止めチャンネルを予めスタッドに打抜かれた穴に差込み、スペーサで振れ止めチャンネルを押え込めば完了です。
- (6) 防錆処理
出入口等の開口補強箇所及びスイッチボックス、配管工事カ所等の溶接部は必ず錆止め塗料を塗附し、防錆処理をほどこします。



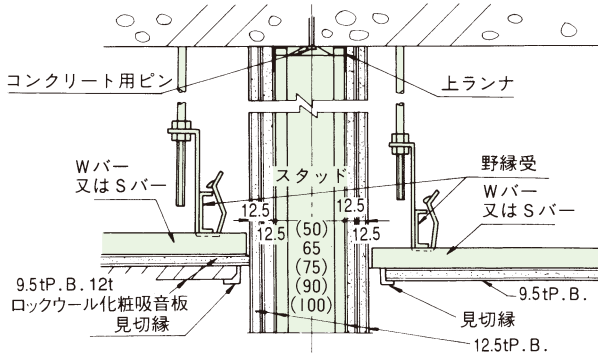
2 一般壁面施工詳細図

遮音間仕切施工例

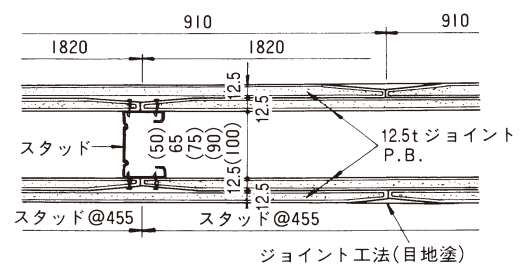
■ A断面図（縦側）



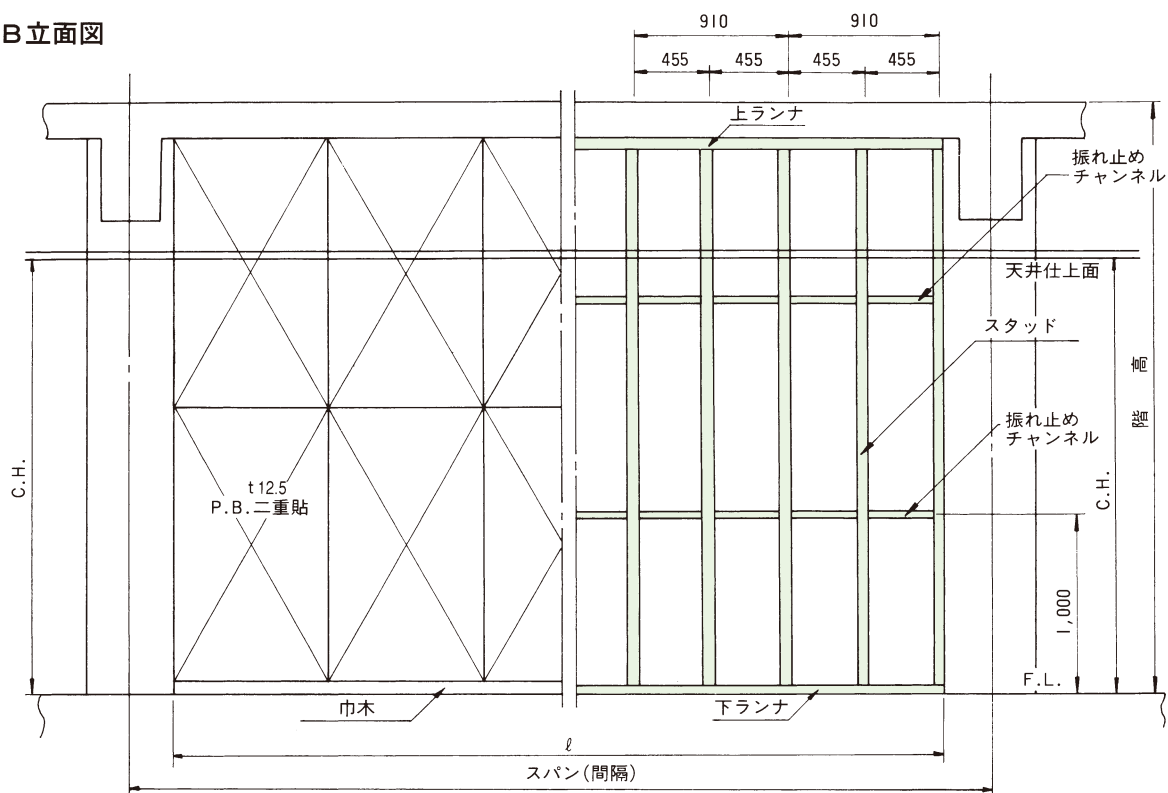
■スタッドと野縁が直角になる場合



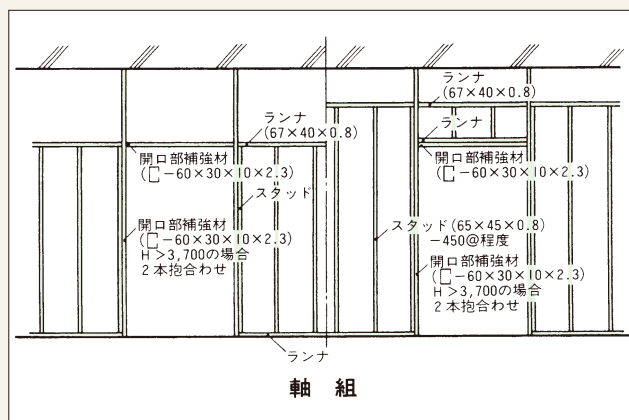
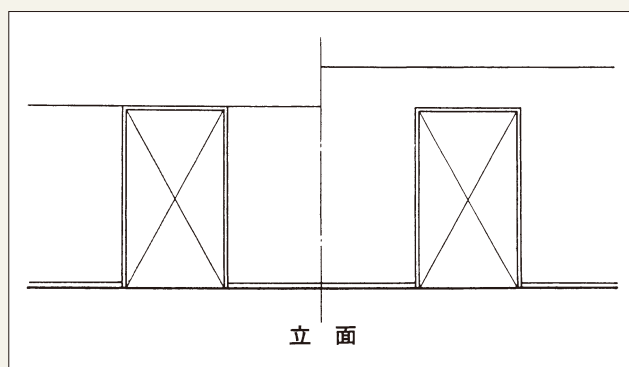
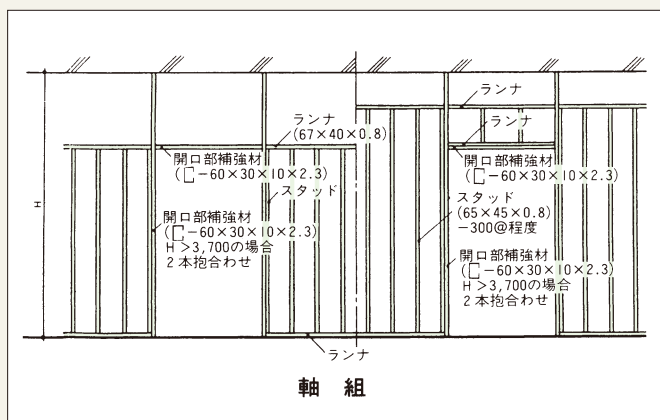
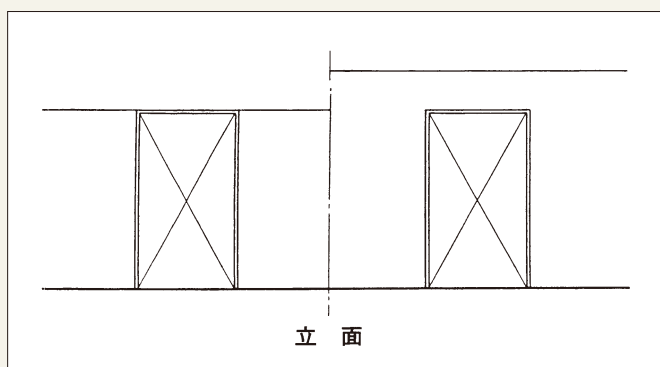
■ジョイント工法の場合の断面図（横側）



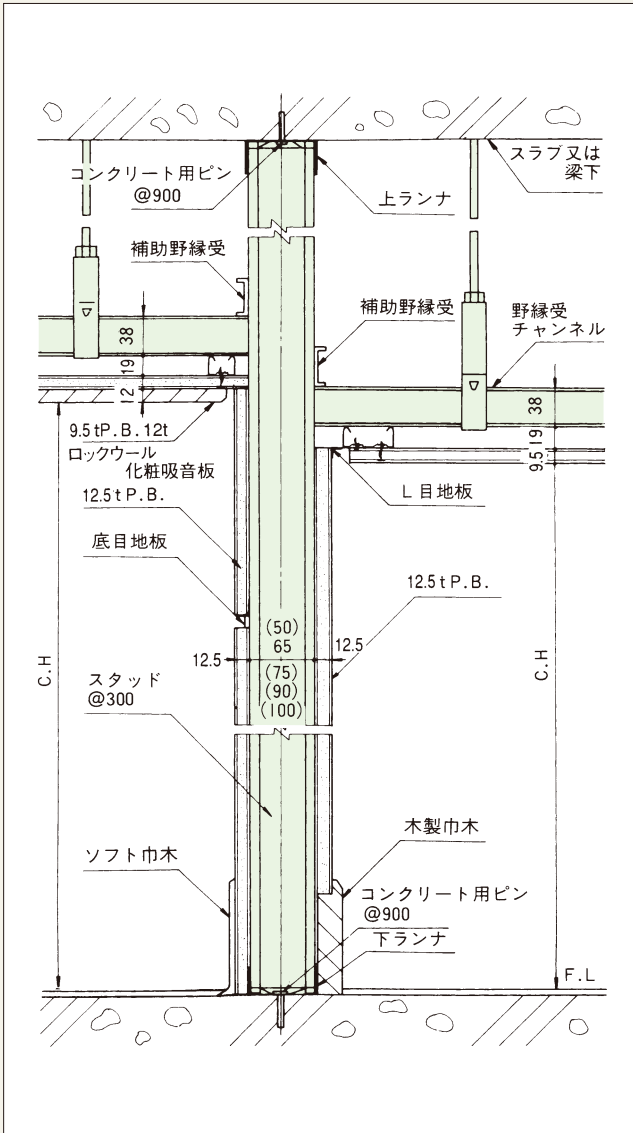
■ B立面図



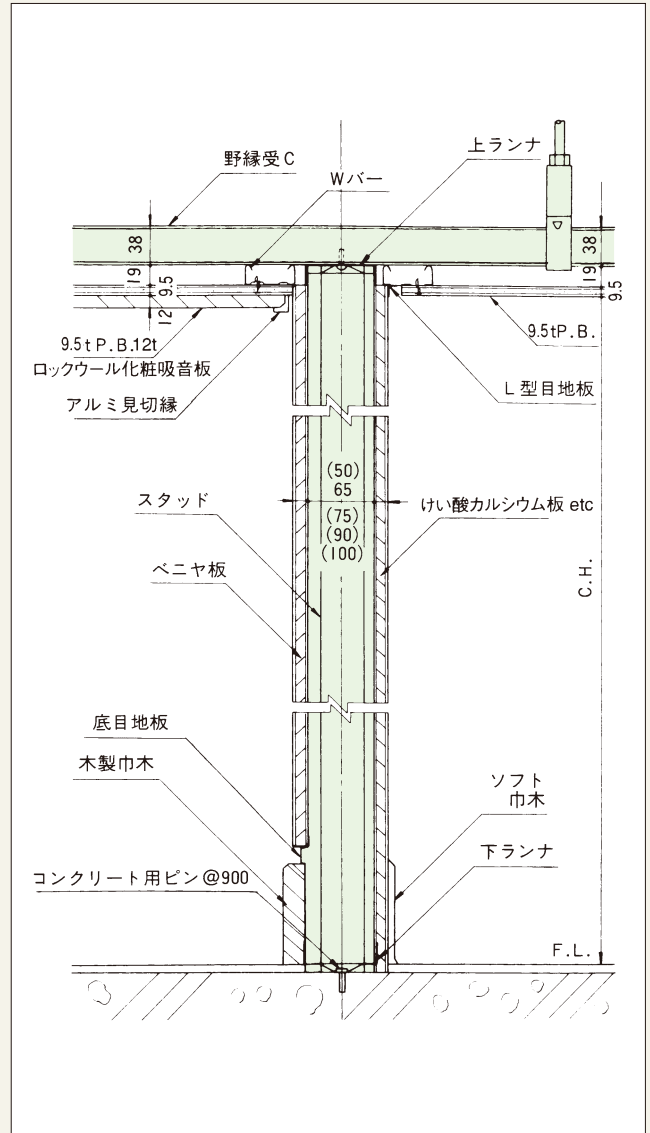
■ 建築工事軸組標準図



施工例 (1)天井高が異なる場合の施工詳細図

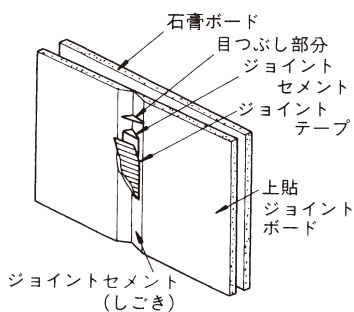


(2)野縁受にランナーを取付ける場合の施工詳細図

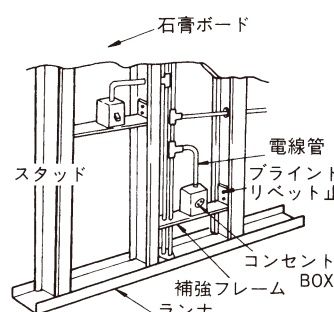


各部別工法並びに取付要領

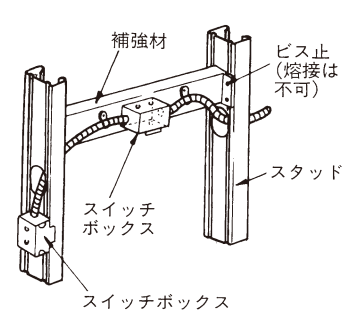
A) ジョイント工法



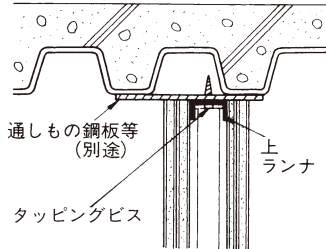
B) 配管工事要領



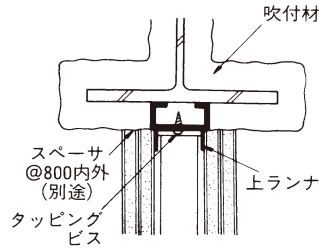
C) スイッチボックス類取付要領



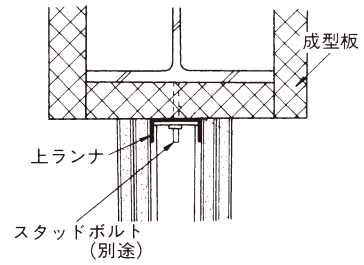
D) デッキプレートのランナ
取付要領



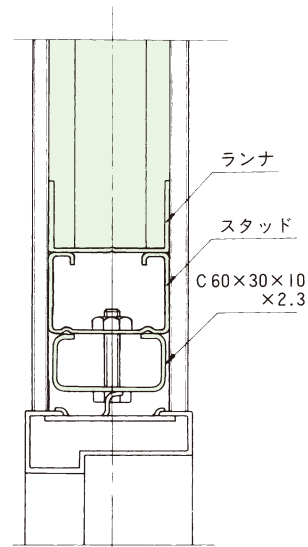
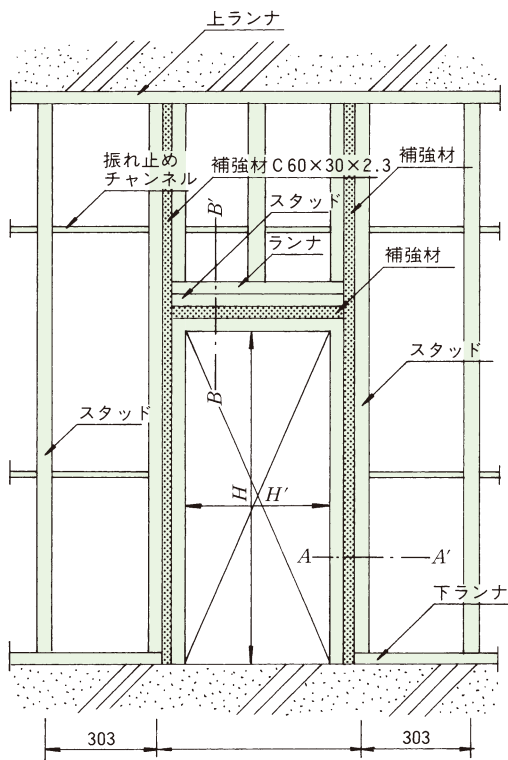
E) 耐火被覆の梁が間仕切と平行
の場合の取付要領



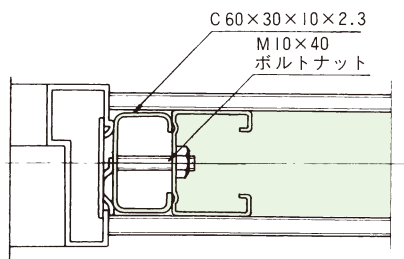
F) 成型板の場合の取付要領



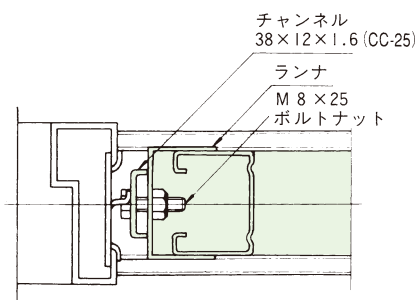
金属製建具廻り詳細図



B~B'断面図

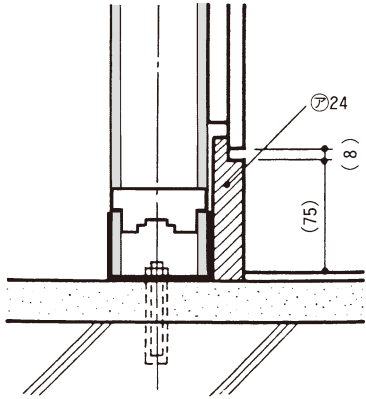
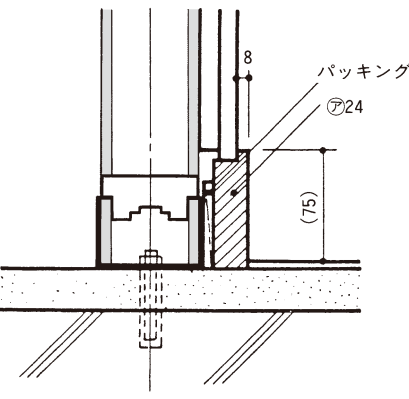
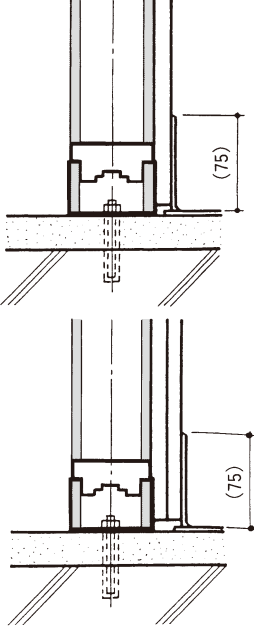


A~A'断面図

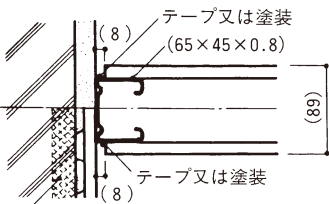
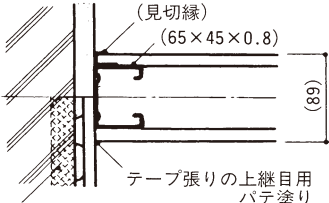
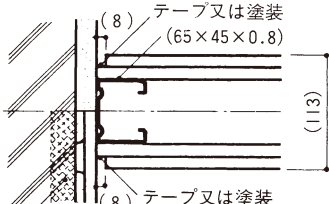
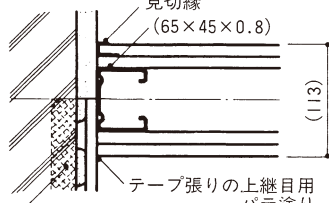
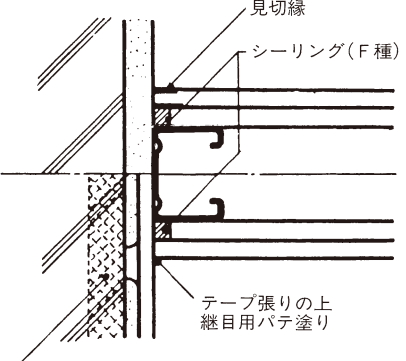


アルミ建具の場合

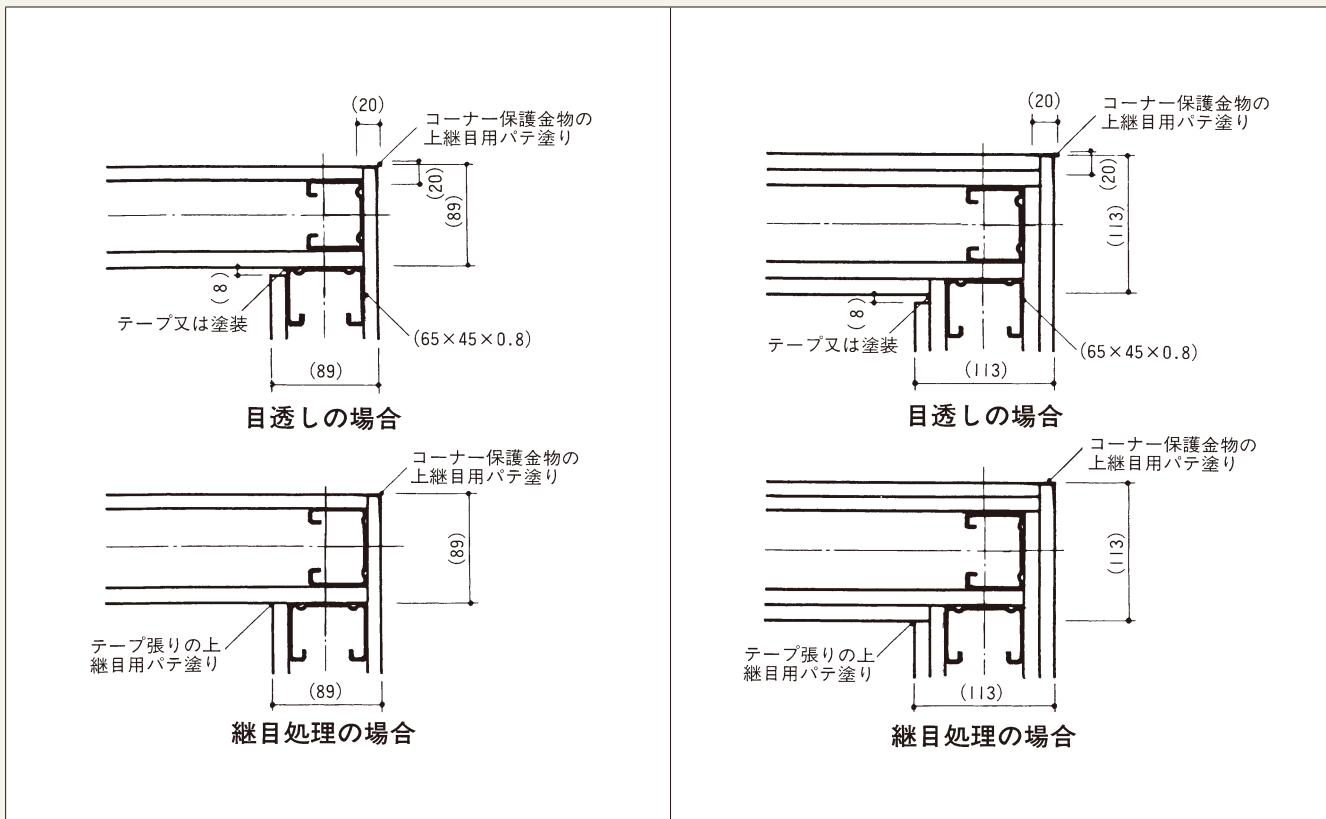
巾木取合い

木製巾木	木製巾木	ビニル巾木
 <p>⑦24 (8) (75)</p>	 <p>8 バックング ⑦24 (75)</p>	 <p>(75) (75)</p>

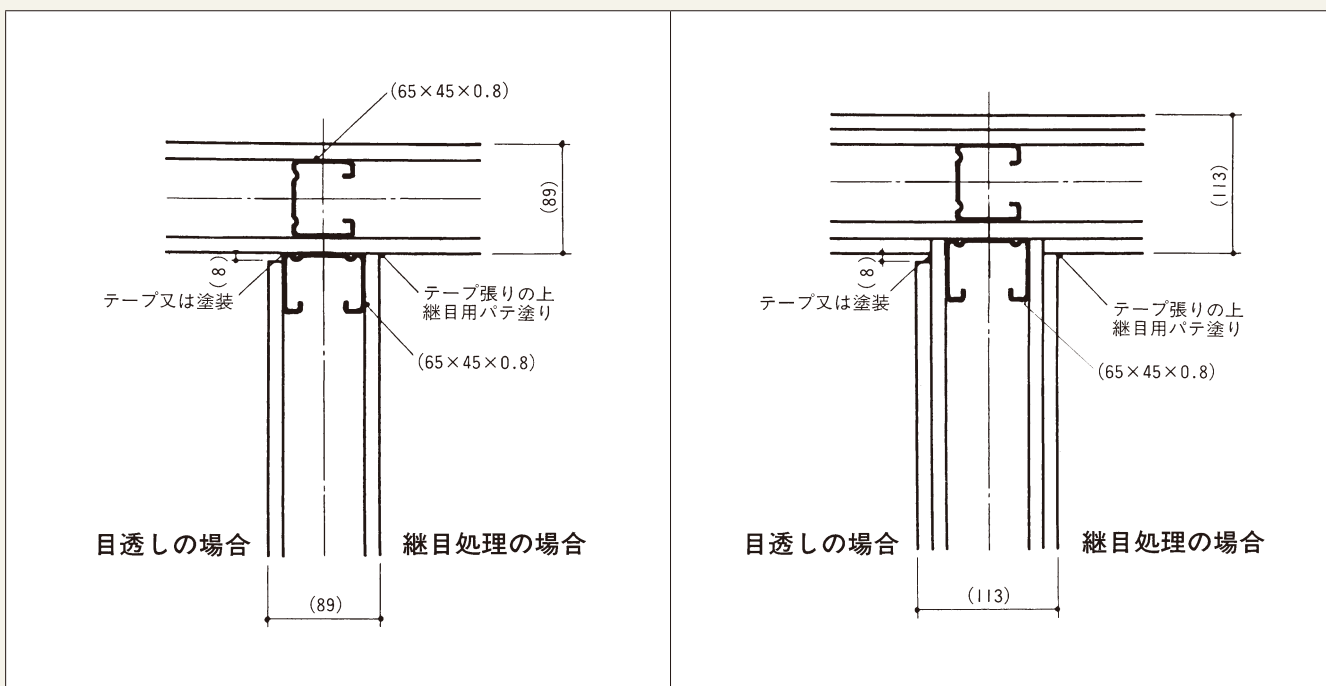
壁取合い

 <p>(8) テープ又は塗装 (65×45×0.8) (89) (8) テープ又は塗装</p> <p>断熱材打込みの場合 目透しの場合</p>  <p>(見切縁) (65×45×0.8) (89) テープ張りの上継目用 パテ塗り</p> <p>断熱材打込みの場合 継目処理の場合</p>	 <p>(8) テープ又は塗装 (65×45×0.8) (113) (8) テープ又は塗装</p> <p>断熱材打込みの場合 目透しの場合</p>  <p>(見切縁) (65×45×0.8) (113) テープ張りの上継目用 パテ塗り</p> <p>断熱材打込みの場合 継目処理の場合</p>	<p>野縁と直角の場合</p>  <p>見切縁 シーリング(F種) テープ張りの上 継目用パテ塗り</p>
--	--	---

L型取合い



T型取合い



The Hashira System®

- 外壁下地材
- 屋根下地材
- 強力型角型間仕切下地材
- 倉庫業法2500N/m仕様
- 新角型間仕切下地材
- ふかし壁下地材
- SATOCK床下地システム
- 耐震スマート天井
- ゆるまないブレース材上端取付金具スマートギヤロック
- 耐震スマート天井ライト
- タンゴ天井
- ドウコ天井

SATOCK®

- 軽鉄天井・軽鉄壁下地材
- SATOCK耐震天井

株式会社 佐藤型鋼製作所

URL <http://www.satock.co.jp>



□本社

〒733-0802 広島県広島市西区三滝本町 2-24-24
TEL 082-237-1962 FAX 082-237-4703

□東京営業所

〒104-0031 東京都中央区京橋3-3-14 京橋AKビル6階
TEL 03-6281-9170(代) FAX 03-6281-9171

□千葉流通センター

〒299-0107 千葉県市原市姉崎海岸38
TEL 0436-60-7661(代) FAX 0436-60-7672

□吉田工場【日本産業規格認証取得工場：TC0616001】

〒731-0524 広島県安芸高田市吉田町川本180-1
TEL 0826-43-1346(代) FAX 0826-43-1876

□広島流通センター

〒731-0523 広島県安芸高田市吉田町山手713-1
TEL 0826-43-1982(代) FAX 0826-43-1983